

# 令和3年度 女川高等学園 寄宿舎での防災のまとめ

<～災害はいつ起こるかわからない～>

そのために準備できることは？

〒986-2231

宮城県牡鹿郡女川町浦宿浜字十二神60-3

宮城県立支援学校女川高等学園 寄宿舎

TEL 学校 0225-50-1088

寄宿舎 0225-50-1126

FAX 0225-50-3430

HP <https://okg.myswan.ed.jp>



## ～もくじ～

- ①総務班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ②救護班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ③給食給水班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ④環境整備班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ⑤安全点検班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- ⑥広報班・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6～1  
9
- ⑦受賞・活動歴・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20

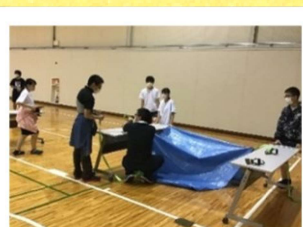
～女川町の人々にインタビュー東日本大震災から10年・防災について～



## ～女川高等学園・寄宿舎自治会とは？～

### 自治会組織とは？

上級学年がリーダーとなり、防災を意識した活動を日々行っています。後輩を導きながらひとりひとりが責任を果たし、生徒のみんなの力で『**より楽しく、より安全で、より安心な暮らし**』を守ります。



### 総合防災訓練とは？

被災地で開校した学校であるため、日常の暮らしの中でも『防災意識』は必要となることから、生徒一人一人が災害時における体験や、災害にあって困っている人を助ける体験をします。その体験を通して、災害時に自分でできることや、お互いに助け合うために「**自分の命は自分で守る**」「**共同生活する中で互いに協力する姿勢**」「**地域への貢献の気持ち**」を総合防災訓練を通して学びを深めます。

# 総務班

～総務班の生徒による避難所運営訓練～  
感染症対策を講じた避難所の設置・準備行程の学び



34世帯を分けている様子  
色々な世帯を想定しています。



感染症対策をし検温  
密集を防ぎながら環境を整えました。



# 救護班

～災害時における応急処置～  
症状に合わせた4つの症状(骨折/熱中症/低体温/出血)に合わせた処置内容を生徒同士で考え話し合い、傷病者役の先生に処置をする。実践を多く取り入れた学び。



災害時における応急処置は  
何が必要なんだろう？

応急処置道具を探しています。  
代用できるものはありますか？



発熱時の対応は？  
氷嚢を使用しよう。

出血時の対応は？  
止血が重要。



低体温の対応は？  
体を温めよう。

# 給水班 給食

～非常食配食訓練 & 災害時の対応(クイズ)～  
感染症対策を踏まえ、生徒による非常食の提供を  
実践し、非常食を実食する。  
災害時に必要となる食事や水分についての  
知識を深める学び。



**非常食体験**  
感染症対策として、配食は個別に。



**非常食クイズ**  
非常食体験を○×形式のクイズで  
振り返りをしました。



# 安全点検班・環境整備班

～防災体験・防災スタンプラリー～

生徒が防災に関する8つの企画(段ボールベッド作り、浸水  
歩行体験、災害火災について、防災倉庫調べ、避難生活で  
の安全確保、危険箇所点検、防災クイズ、新聞紙スリッパ体  
験)を考案しました。スタンプラリー形式で、参加者は8つの  
企画を全てを体験する。体験、企画の準備・進行を通して、参  
加・企画した生徒が知識を深める学び。



**段ボールベッドの組み立て体験**



**浸水体験～実際の歩きにくさを体験してみよう。**





防災倉庫の備蓄品の説明



安全体操  
避難先で体を簡単に動かすストレッチ

災害火災について・防災クイズ・危険箇所点検



災害時、  
新聞紙  
スリッパ体験



村上善司前女川町教育長  
にインタビューしました。

Q. 災害が起こった際に、教育機関に「これだけは備えてほしい」ことはありますか？

A. **食料**を備蓄してほしいです。あとは懐中電灯・無線機・乾電池など、生活に必要な物を備えてほしいです。

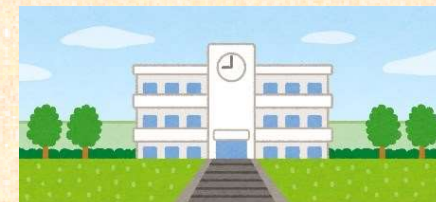
Q. 震災を受けて、女川町内の教育機関で取り組んでいることはありますか？

A. **第一に子ども達の心のケア**です。安否確認も徹底的にしています。

# インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



一番に自分の命を自分で守りましょう！



Q. 減災として女川町内の教育機関で取り組んでいることは何ですか？

A. 高台に学校を造りました。日頃の訓練も大事です。**一番に自分の命を自分自身で守ることを考えてほしいです。**

Q. 震災で一番大変だったことを教えてください。

A. 安否を確認し、いかに学校をスタートさせるかが大変でした。また、**子ども達の心のケア**をどのようにして行っていくかが課題でした。

Q. 震災当時に取り組んだことを教えてください。

A. 行方不明者を捜すことや、大量に届いた支援物資を整理する作業に取り組みました。



取材担当 自治会広報班  
鈴木美玖 川崎綾奈

## インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



日頃の備えが一番大事です。

宮城県石巻警察署  
女川交番班長  
**後藤博之様**に  
インタビューしました。



Q. 女川町の「誇り」を教えてください。

A. **町民一人一人が助け合うところ**です。また、若い人たちが命の石碑を女川町内に数カ所建て、後世に災害への備えをしているところ、**防災意識が高いところ**もです。



Q. 震災後に取り組んでいることや  
日頃の備えは何ですか？

A. 防災訓練を行うことで見えないところ(足りないところ)が見えてきます。備えとしては、無線機・パトカーなどの点検を日頃から行っています。備蓄の食料は自分で用意しています。



Q. 町民の防災意識を高めるためにどんなことをしていますか？

A. 町民の防災意識を高められるようにパトロールしながら注意喚起を個別に行っています。

Q. 減災への取り組みを教えてください。

A. 震災はどうしても防げないものなので、日頃から注意を呼びかけ、いつ次の災害が起きても対応できるようにしています。



取材担当 自治会  
広報班 渡邊圭

## インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



女川町役場  
産業振興課課長  
阿部清人様にインタビューしました。

自分の命は  
自分で守ります！



Q. 日頃から町民に呼びかけている災害への備えは何ですか？

A. 自分の命は自分で守るということです。それを常に考えるということです。

Q. 防災無線で避難を呼びかけていたときの気持ちを教えてください。

A. とにかく皆助かって欲しい。目の前に津波が来ているから逃げてほしい、という気持ちでした。

Q. 震災当時に取り組んだ作業について教えてください。

A. 災害対策本部を作り、**人命救助最優先**で業務にあたっていました。

Q. 震災で一番大変だったことを教えてください。

A. **全てが初めてで全てが大変**でした。特に電話等のライフラインがストップしたのが大変でした。

**高台に避難してください**



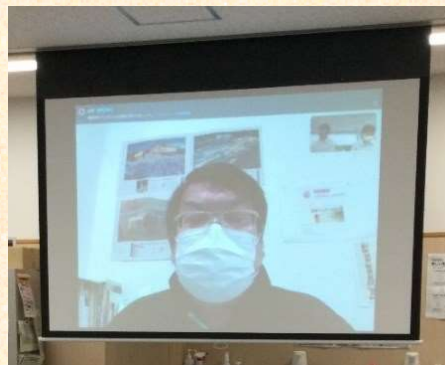
Q. 減災として女川町で取り組んでいることはありますか？

A. **減災を意識した町作り**を進めています。道路は津波が来たときと同じ6mの高さにかさ上げしています。住宅街は20mの高さに移転をしました。



取材担当 自治会広報班  
笠井樹 清和龍生

## インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



日頃の準備が大切です。



女川温泉ゆぽっぽ支配人  
**吉田雅**様にリモート取材しました。

Q. 減災として取り組んでいる事がありますか？

A. 常日頃から、**災害は起こるものとして、心の準備**しておくことです。



Q. 災害にあったときに「これだけは備えておいて欲しい」というものはありますか？

A. **数日分の水・避難経路**を把握しておくことです。

Q. 震災を受け、日頃行っている災害の備えは何ですか？

A. **避難経路を作り、避難の練習**をしていることです。



Q.震災後の女川町の「誇り」を教えてください。

A. **復興のトップランナー**として頑張っている所です。

Q. 震災で一番大変だったことを教えてください。

A. 家族と連絡が取れなかったことです。



Q. 感染症対策としてどんなものを備えていますか？

A. マスク・消毒液・体温計等です。



取材担当  
自治会広報班  
笠井樹 石川羅衣

## インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



女川町民は  
温かいです！



居酒屋典典・店長  
**今野敏郎**様に  
インタビューしました



Q. 減災として取り組んでいることはありますか？

A. **高所に物を置かないこと。固定できる物は固定すること。予備の服（ジャンパー等）を一着用意することです。**



Q. 震災を受け、日頃行っている災害への備えは何ですか？

A. **3日分の食料の確保**（水も）と車のガソリンを満タンにしておくことです。

Q. 女川町の「ここが誇り！」というところを教えてください。

A. 海がきれいなところ。  
**人が温かい**ところ。気候が穏やかなところ。

Q. 感染症対策として何を備えていますか？

A. 換気・手洗い・アルコール消毒・湿度管理・マスク・空気清浄機等で対策しています。

Q. 災害にあった場合に「これだけは備えておいてほしい」ということはありますか？

A. **まずは自分を守る**こと。第2に周りにいる人のことを考えてほしいです。

Q. 震災で一番大変だったことを教えてください。

A. **食料**の確保です。



取材担当 自治会広報班  
渡邊圭

## インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



非常時に  
ローソクは役に  
立ちます！



女川高等学園の  
**阿部粹先生**に  
インタビューしました。



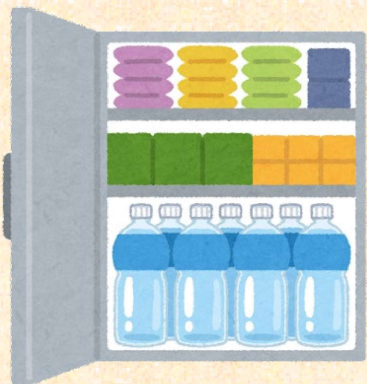
Q. 震災で何が一番大変でしたか？

A. **家族や親戚の安否確認**ができずに大変でした。食料も生もの（野菜等）を食べることができずに大変でした。



Q. 女川町の「誇り」を教えてください。

A. **商店街や企業の団結力が素晴らしい**。そのため復興も早かったと思います。地域のコミュカは高いです。



Q. 減災として取り組んでいることはありますか？

A. **今いる場所より高いところに避難する**。非常用のバックを準備する。近所の人にも声をかける。ハザードマップを確認する等です。

Q. 震災を受け、日頃行っている災害の備えは何ですか？

A. **水・保存食・避難できる場所の確認**。ローソクは非常に役に立ちました。



取材担当 自治会広報班  
鈴木美玖

## インタビュー特集 震災から10年～あの時を振り返って～



日常的な備えが大事です!



前女川高等学園  
寄宿舍指導員  
**真壁達也先生**

に  
インタビューしました。



Q. 日頃行っている備えは何ですか？

A. 備蓄品を確認することです。例えば**ラジオの電池や、スマホのモバイルバッテリー等は情報を得るために大事な**ので日頃から確認しています。



Q. 東日本大震災で何が一番大変でしたか？

A. **食べ物**がなかったことです。震災から3日後に食べた魚肉ソーセージは人生で一番美味しかった食べ物です。

Q. 減災に取り組んでいることはありますか？

A. **家族で避難場所を決めておく**ことです。



Q. 女川高等学園の「ここは誇り!」というところを教えてください。

A. 大規模な防災訓練を、**地域住民と協力しながら**行っている所です。

Q. 災害に遭った場合、「これだけは備えて欲しい。」ということはあるですか？

A. 持病がある人は**薬**。それに**薬を飲むための水**です。

取材担当 自治会広報班  
川崎綾奈 後藤麗輝

## ～本校の防災訓練のあゆみ～

### ★活動・受賞歴☆

2017 前身となる防災行事が始まる。

「ぼうさい甲子園」(1.17防災未来賞)応募

2018 「総合防災訓練」開始。

「ぼうさい甲子園」応募

2019.2.18～19 タイのチェンマイ

「障害インクルーシブ防災研修」での実践発表

2019 「ぼうさい甲子園」**奨励賞受賞**

2019.12.20 東京で行われた防災セミナー

「避難所運営訓練・女川HUG」の実践発表

2020 「ぼうさい甲子園」**グランプリ受賞**

2021 「ぼうさい甲子園」**特別賞**

**しなやかWithコロナ賞受賞**

